

H24年度から移転実施 (18班地区)

7月22日(金)午前10時から建設委員会が開かれました。スーパー堤防に関する陳情15号(提出18班地区)、16号(同篠崎地区)、18号(同北小岩地区)、23号(同18班地区)で質疑が交わされました。委員長、委員、土木部長が代わったことで活発な審議の場となりました。冒頭、議会事務局から18号に3筆の追加が発表され、北小岩の署名数は合計1580筆になりました。18号に関する質疑を紹介します。

土木部 国に於けるスーパー堤防の進捗率は、構想872・64km、未整備821・81km、完成済み+事業中50・83km、率にして5・8%。整備効果は強固な水防の街になる、防災上の拠点「防災コア」になる、防災性の高い街になる、川が身近にある水辺の空間になる、などの効果がある。

新村委員(生活者ネット) 前部長は蔵前橋通りから北側は手をつけられない、と言ったがどうか。
土木部 色々な声、意見はあると思う。丁寧に話をしたい。

新村委員 北小岩もスーパー堤防化する計画か。
土木部 江戸川区の地形を見れば、強固な堤防にする必要がある。時間、お金もかかる。国、都、区が責任をもってやらなければならぬ。

新村委員 区は7割が0m地帯と言うが、それを示す明確な資料がなかった。データが欲しい。
小俣委員(共産) 構想される6河川でいくら金を使ったか、データが欲しい。江戸川も重点整備区間に入っているのか。

土木部 距離は223km。江戸川も荒川も含まれる。区内の堤防のうち7割が緩傾斜堤防になっている。

小俣委員 残りを実施する際、金はあるのか。
土木部 相当厳しい状況だが、今から備えなければならぬ。声高に主張していきたい。
小俣委員 スーパー堤防でなくてはならない、ではなく、様々な工法、研究も区として提案していくべきだ。

土木部 工法、効果などに照らしてスーパー堤防になった。事業仕分けされたが、今、有識者会議で検討中だ。7月中には報告が出よう。

早川委員(自民) 北小岩の陳情文の中に、北小岩には液状化が見られる、今やれば住民税を使わなくて済む、などと江戸川区の理由付けが変化しているなどの陳情がどうして出ているのか。

土木部 補助283号線の整備、木造住宅が密集している、江戸川駅周辺の活性化、液状化が予測される、この4点は一貫して説明している。

なお、新議会での建設委員会は、7月5日にも行なわれましたが、その日は各委員からの資料要求だけでした。そしてこの日は、要求された資料の執行部の説明が主で、膨大な資料の説明に多くの時間がかかり、資料に基づく質疑だけとなっています。

実質審議は次回の建設委員会からになります。

次回の建設委員会は8月9日(火)午前10時からです。

行政の本意は
何処に
あるのか
――
安中茂作の
スーパー川柳
第六十九弾



建設委員会に出席するスーパー堤防関係の土木部執行部のメンバー。
(右から二人目・浅川土木部長、三人目・山口沿川まちづくり課長)